



リハビリテーション科のご紹介

リハビリテーション科の主な目的は、患者さんができる限り自立して生活できるように支援することです。具体的には、身体機能の改善、日常生活動作の向上、言語やコミュニケーション能力の回復を目指します。

当科には、経験豊富な理学療法士19名、作業療法士18名、言語聴覚士9名、リハビリテーション医師2名（非常勤）が在籍しており、チームで連携して患者さんの治療にあたっています（2024年現在）。医師や看護師とも緊密に協力し、総合的なケアを提供しています。外来はもちろん、病棟も4つあり、そのすべてにリハビリスタッフが所属しています。機器や設備も整っており、安全かつ効果的に治療を受けられる環境が整っています。

当院では、主に以下の治療を提供しています。

■ 理学療法

筋力強化、関節の可動域拡大、バランス訓練などを通じて、身体機能の回復を図ります。各種身体機能検査、下肢装具の評価などを実施します。

■ 作業療法

日常生活動作の訓練や、自宅・施設・職業復帰のための支援を行い、患者さんの自立をサポートします。認知機能や高次脳機能検査、上肢機能検査、脳卒中ドライバーのスクリーニング評価などを実施します。

■ 言語聴覚療法

言語やコミュニケーション能力の改善、嚥下機能の向上を目指して治療を行います。言語機能検査、嚥下造影検査や内視鏡検査を実施します。

医師の指示のもと患者さんの状態を詳しく評価し、その結果に基づいて個別のリハビリテーションプランを作成します。治療は専門のセラピストによって行われ、定期的に進捗を確認しながらプランを調整します。

また、整形外科疾患、脳外科疾患だけでなく、内臓疾患に対する運動療法や呼吸・循環器疾患に対するリハビリテーションも提供しています。スタッフには、日本糖尿病療養指導士、三学会合同呼吸療法認定士、運動器認定理学療法士、認定作業療法士を取得している者が在籍しています。

当院は、近隣地域在住の高齢者の受診頻度が高く、重複疾患を患っている方も多く入院されます。他職種・他部署との連携に力を入れ、安心・安全な治療を実施しています。

院内連携だけでなく、ご家族や後続支援先のスタッフにも、リハビリの様子を見学していただいたり、カンファレンスを開催したりと、十分な情報提供ができるよう心がけています。必要に応じて退院前にご自宅を訪問し、動作や環境のアドバイスを行っています。

なお、リハビリを受けるには、医師の診察が必要です。また、対象となる病名が決められているため、各診療科を受診の際にご相談ください。

患者様にとって安心・安全な治療を心掛けています。スタッフ一同、心をこめて対応いたしますので、不安やご要望がありましたらお気軽にお声掛けください。

リハビリテーション科 岩見



〒431-3113

静岡県浜松市中央区大瀬町1568

TEL (053)-435-1111

FAX (053)-433-2700

Webページはこちら(QRコード) >>



翔き

はばた

2024
秋号
No.75



互助会主催のビヤガーデン企画
5年ぶりに多くの職員が参加しました。



医療法人社団 盛翔会

浜松北病院

基本理念

思いやりを基本とした
愛情ある医療と福祉を実践する



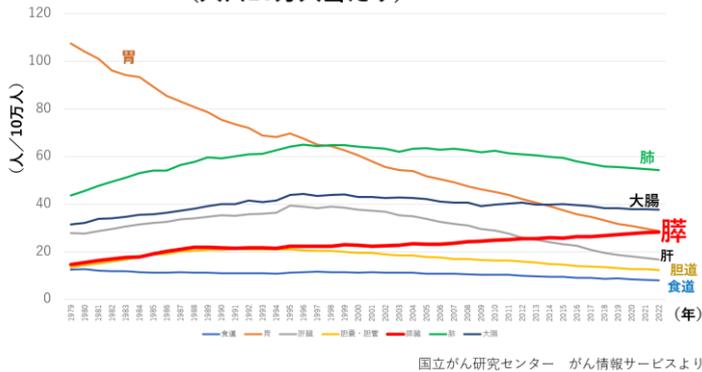
肝・胆・膵外来のご案内

令和6年10月から毎週木・金曜日に肝胆膵外来を始めることになりました。この外来では肝臓（肝癌や肝炎など）、胆道（胆嚢や胆管の病気）、膵臓（膵癌や膵炎など）について中心に診察します。この病院だよりで、肝・胆・膵外来で扱う病気について順次、紹介していきたいと思ひます。

第1回目は“膵臓癌について”です。

“著名人が膵癌で亡くなった”というニュースを耳にすることが多くなり、膵臓癌が“質（たち）の悪い、怖いがん”として知られるようになりました。下図の死亡数の推移をみてください。現在、死亡数で見ると、肺・大腸・胃癌の後の4位ですが、他の癌（胃、大腸、肺がんなど）の死亡数が減少ないし現状維持に転じているのに、膵臓癌だけは未だ、増加しています。近々、肺に引き続き、2位となる見込みだそうです。

がん種別死亡数の年次推移 (人口10万人当たり)



膵臓癌の質の悪さは、他の癌種に比べ、①膵は胃の後ろ、お腹の深くあり（下の図）、見つけづらい ②比較的、早期の段階から転移してしまう ③症状は末期まで出づらい ④ほかの癌の治療成績がぐっと上がったけど、膵臓癌が残されている、などに原因があります。

といっても膵癌の治療成績も上がってきています。

- ① 進行癌でも抗がん剤を手術前や後に使い、手術による局所制御と抗がん剤の全身制御の方針が確立された
- ② 早期発見の糸口が見えてきた の2点が重要です。

このうち、膵癌が早い時期から、遠隔転移をするのですから、早期発見は極めて重要です。以下のような人は膵臓癌の危険因子をお持ちです。

- ① 親族が膵癌（危険リスク7~13倍）
- ② 遺伝性膵炎（リスク50倍）
- ③ 喫煙・飲酒（リスク1.6~3.3倍）
- ④ 糖尿病（リスク2倍）とくに最近ひどくなった
- ⑤ 慢性膵炎（リスク13倍）

また検診などで

- ① 膵嚢胞（液体の入った袋）（リスク6倍）
- ② 膵管の拡張（リスク6倍）など異常を指摘された

このような危険因子をお持ちの方は、超音波検査、CTやMRIなどの画像診断、そのうえ、必要があれば、超音波内視鏡（胃内視鏡に超音波がくっついているようなもの）を受けてみるのが大切です。

当科では、肝・胆道・膵の診察も積極的に行っております。一度、ご相談ください。

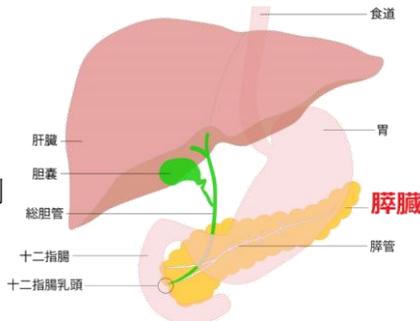
横井 佳博 医師

外科・消化器科

外来診療時間

木・金曜日

8:45 ~ 12:00



10月10日は体育の日ではないの？

月明りで照らされた羊雲、日ごと賑やかくなる虫の音で秋を感じる事が出来ますが、全国各地での最高気温の更新報道。暑い日がまだまだ続いておりますね。

私の仕事は、土日祭日が必ずお休みではありません。日めくりカレンダーを見て曜日を知る事など日常茶飯事です。祭日も『今日は何の日だ?』なんて事もしばしば。体育の日も10月10日でなくなった事を知ったのはつい最近です。

年号は昭和。連日の暑さから、想像すらできませんが、この10日に運動会をやるのが一般的でした。現在の様にカメラや録画機器が普及もしていませんので場所取り合戦も無いのんびりした時代。勉強が苦手な私でしたが、運動会だけは、いいところを見せられる日なので朝から気持ちが高ぶりました。お弁当もすごく楽しみでした。しっかりとした海苔で覆われた大きな“おむすび”。重箱にはカニの形のウインナー。そして卵焼きにハンバーグ。好きな物ばかりで、今思い出してもお腹が鳴りますね。母は、早朝からそれらをこしらえる訳ですから大変だったと思います。それに、今より幾らか涼しいとはいえ、食べ物が傷みやすい季節。出来る限りの安全策を講じてくれたおかげで、運動会の思い出は楽しいものばかりです。

みなさんは、お弁当を作る際、どんな事に注意していますか？安全のポイントは、食中毒菌を“付けない”、“増やさない”、“やっつける”、事。

- ① 容器、調理器具、まな板は熱湯消毒。（アルコールも上手に活用しましょう）
- ② 加熱するものは中までしっかり火を通す。生野菜を入れる際は消毒した物を。
- ③ 素手で弁当箱に詰めない。詰める際は冷ましてから。（おむすびも手袋着用で）
- ④ 保冷剤、保冷バックを上手に活用（食材を凍らせて詰めれば保冷剤にもなります）
- ⑤ 味付けは普段よりしっかりつけると傷み難かったです。（普段の食事は減塩で）

お弁当に限らず、食事の支度の際には細心の注意をお願いします。

管理栄養士青山